

茨木 保(著)

「まんが 医学の歴史」

山田貴敏

(『Dr. コトー診療所』作者・漫画家)

天は二物を与えずとはよく言いますが、この『まんが医学の歴史』の著者茨木保という人、その範疇にはないようです。

そもそも医者になる人間は、私が考えるにそれだけで選ばれた人間だと思うのですが、この人、漫画まで描いちゃう。

私の著書『Dr. コトー診療所』でも監修をしていたが、それも家庭の事情などまったく考えない理不尽な漫画家による、午前1時の「この場面、医学的に間違ってますか？」などという電話にも、快く答えてくださる。

ついでに「この先の展開の医学用語、朝までにメールしてもらえますか？」とずーずーしくお願いしても、「わかりました」と二つ返事で承諾してくださる。つまり、まれにみる“いいひと”なのです。それにつけこんではや8年。たぶんこれからも、頼り続けることになると思います。

さて『まんが医学の歴史』、ご本人曰く、医学書(参考文献)を読む「入り口」になれば幸いとあとがきに書いておられる。

私も医学漫画(?)を描いている手前、医学書を読んだことが(ページをめくったことが)あります。なかにはすこぶる面白いサスペンス(推理)小説のような医学書もあるのかもしれませんが、しかし、この「入り口」以上に面白い読み物がはたしてあるのでしょうか？

「入り口」を読んでひき帰す人も多いのではないかと、そう思えてなりません。なぜならば、この「入り口」、良いところ取りなのです。

つまり、私たち描き手の仕事に「削り」という作業があります。思うに医学書という書籍には、延々と事実を平坦に並べ立てる、リズムのない音楽のような書物(もちろん私の思い込みも多分に含まれていますが)という先入観があります。事実、たまたま手にとった医学書がその類いのものでしたので、そこから、いかに面白い要素を抽出するか、つまらない(読みにくい)部分を削り取って、読む人の心をつかむ部分を残すか。これ、かなり才能のいる作業だと私は思っています。

『まんが医学の歴史』は、まさにその作業を成功させている例だと思います(偉そうですが)。『Dr. コトー診療所』でも、夜中に茨木先生をたたき起こして資料を送ってもらったにもかかわらず、その資料の1割しか使わないなんてこともよくあります。ホントすいません。ただ、十送ってもらったからこそ、一が描けることも事実なのです。

茨木先生は、膨大な量の参考文献を読まれてこの1冊に集約された、読めばわかってももらえると思います。が、いわゆる“良いところ取り”な本である由縁なのです。

本音を言えば、これ以上わかりやすく面白い漫画(本)を描かれると、深夜に電話してももう出てもらえないのではないかと、売れっ子にならないでとったりもした、珠玉の1冊です。

●A5版 356頁

定価 2,310円(本体 2,200円+税 5%)

2008年 医学書院・刊